

き★ら★り



国連が警鐘！！



新型コロナウイルス感染症の流行及びそれに伴う外出制限は、社会の様々な部分に影響をおよぼしています。特に女性・女兒に対する影響が大きく、とりわけ配偶者間暴力（DV）を含む暴力が増加していることを国際機関が“**陰のパンデミック**”が拡大していると指摘しています。

※パンデミック…世界的な大流行

新型コロナウイルス感染症の女性・女兒への影響

- 1. 経済への影響** 女性は一般的に収入や貯蓄が少なく、不安定な仕事に就いている割合が高いため、男性よりも経済的打撃を受けやすい。
- 2. 健康への影響** 性と生殖に関する健康を含む、医療サービスへのアクセスに悪影響。また、最前線で働く医療従事者の多くが女性であり（全体の7割）、女性が感染する危険性が高い。
- 3. 無償ケア労働の増加** 外出制限により、家事・育児・介護などの無償ケア労働の需要が急激に高まり、既存の男女間の不平等が一層拡大（従来より、女性は男性の3倍の無償ケア労働に従事）。
- 4. ジェンダーに基づく暴力の増加** 外出や移動が制約されるストレスから、女性・女兒への暴力が世界的に増加。司法・警察・医療などの支援サービスや、シェルターの運営などの民間サービスにも限界。
- 5. 人道的及び脆弱な状況における影響・人権への影響** 難民、紛争地域の女性、貧困問題などを抱える女性など、脆弱な環境にある女性に対し一層厳しい影響。



国連政策概要「新型コロナウイルスの女性への影響」（2020年4月9日公表）より

DV相談体制の拡充

令和2年5月
内閣府男女共同参画局

【DV相談ナビダイヤル】

0570-0-55210



最寄りのDV相談支援センターに電話
⇒ 電話相談・面談・同行支援・保護等

プラス
DV相談+

4月20日開始

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛、休業等が行われる中、DVの増加・深刻化が懸念されるため、相談体制を拡充。

24時間電話相談

つなぐ はやく

0120-279-889

SNS相談

※12時～22時

メール相談

同行支援

保護

緊急の宿泊提供



soudanplus.jp

外国語相談にも対応

英、中、韓、スペイン、ポルトガル、タガログ、
タイ、ベトナム、インドネシア、ネパール

WEB面談も実施

G7各国においても、外出制限下で、女性・女兒に対する暴力被害が急増していることに対し、相談窓口の拡充、支援団体への資金提供といった被害者支援の拡充が図られるなど、幅広い取り組みが行われています。

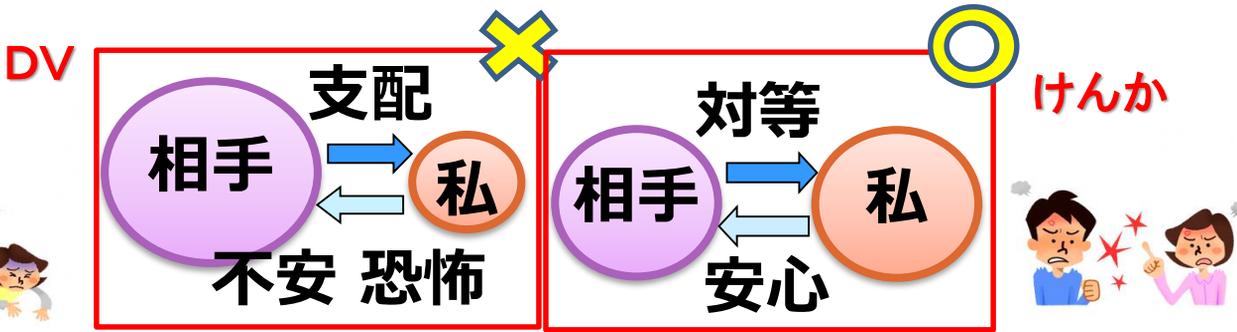
我が国では、内閣府が多様なニーズに対応できるよう、毎日24時間電話相談対応、SNS・メール相談、WEB面談対応、10の外国語での対応を行っています。10月1日からDV相談ナビダイヤル#8008の短縮番号も導入しました。

DV (ドメスティック・バイオレンス) と夫婦げんかはどう違う？

新型コロナウイルスは人々の生活様式や働き方に大きな変化をもたらしました。

「家族関係が良くなった」と答えたのは男性に多く、在宅勤務で家族と接したり一緒に食事を取ったりする機会が増えたことが影響しているようです。ただこれが当てはまるのは一部の人だけで、非正規の労働者は収入が減ったり失職した人も少なくありません。前頁の通り、特に女性への影響は大きく、学校や保育園が休みになり、育児負担が増えて仕事を辞めざるをえない女性もいました。また在宅勤務の上に3度の食事と育児の負担が増えて睡眠時間を削られストレスが増幅して疲弊する女性もいました。

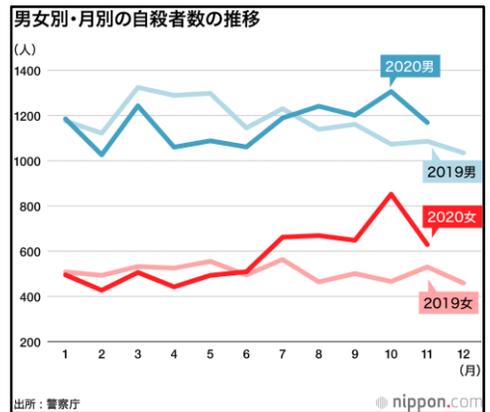
家庭の中で夫婦間に上下関係があったり、対等・平等でなかったりすると、その力の差は一方が相手を支配、コントロールしている関係と言えます。相手に言いたいことが言えなかったり、日々暴言を吐かれていたりすると、自己尊重感が低下して、自分を責めるようになります。相手を対等・平等な人として尊重しないDVは著しい人権侵害です。夫婦げんかは、対等・平等で互いの意見を主張し合うことです。家庭内で起こる暴力は外部から見えにくく、DVは夫婦げんかの延長として軽視されるなど、潜在化しやすく、罪の意識が薄い傾向にあります。



警察庁の調べでは、全国の4月の自殺者は前年同月比で17.2%減りましたが、7月は前年並み、8月は19%(307人)増えて1910人でした。なかでも女性の自殺者は7月が662人、8月が669人でそれぞれ過去最多です。10月は852人で前年同月比で83%も増えています。

背景として雇用の悪化やリモートワークの定着により、家庭内での圧迫の度合いが増しているとの指摘があります。家族関係に悩む人たちがコロナ禍によって新しい問題が生じたわけではなく、これまでも起きていた問題が一気に表面化したとも言われています。絶望のあまり「死」を選ぶのはとても悲しいことです。ぜひ早いうちに相談してください。支援につながることができます。

女性の自殺が増加



男女共同参画センター
“いこ～る” プラスの相談

女性の相談室 予約・問合せ番号
075-963-5502
(月～土午前9時～午後5時)

DV相談専用番号

075
874 - 7867
(月～金午前9時～午後5時)

電話相談専用番号

075
963 - 5522
(月～金午前9時～午後5時)

男性電話相談

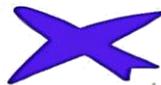
075
963 - 5522
(毎月第4金午後7時～午後9時)

◆ 事業報告 July to January ◆

女性支援講座 7/17(金) 知っておこう!!「離婚」のあれこれ



離婚カウンセラーの山出谷聡美さんに、離婚に伴う具体的な知識や手続きの方法、また女性の相談から見えてきた「ジェンダー」や「DV」の問題について学びました。



事業報告

女性活躍講座 人は必要とされると輝いていく

9/12(土)第1回「相談からはじまる自己実現」

「OTOKUNIレザミ」代表の田中昭美さんに、活動の原点と人生で学んだことなどについてお話いただきました。後半は自己実現に向けて個人個人で考えるワークをしました。



9/17(木)第2回「1人よりも仲間でやることで実現できる」

ママパスポート長岡京メンバーの外村さん、田村さん、小野さん、保田さん、陸さん、そして田中さんに、パネルディスカッション形式で、活動につながる経緯、活動による世界の広がりについてお話いただきました。



男性支援講座 10/9(金)

進まない男性の家事育児参加～何を変えればよいのか～

立命館大学筒井淳也さんが、日本と世界の働き方の比較や日本人の頑張りすぎる気質をふまえた上で、男性に頑張ること・意識を変えること、を求めめるのではなく、女性に頑張らないこと・働き方(仕事・家事)を変えること、の新しい視点で話をされました。



子育て支援講座 10/17(土)

おとなが学ぼう!子どもたちに伝えたい、人とのこちよい距離

思春期保健相談士の徳永桂子さんより、バウンダリーを意識することで人間関係が良好になり、傷つきや性被害の予防につながることをワークを通して実感することができました。距離感を適切に保つことで「からだところの自尊感情」を育むことを学びました。

女性支援講座 10/30(金)

パートナーとの関係を考える～カサンドラ症候群とは～

カサンドラ・サポートセンター安喜蓮華さんは「人生の舵は自分が握り、幸せになる覚悟を持つことが大切だ」と話をされました。「前向きに自分の人生を考えていきたい」と、それぞれに何らかの気づきをもたらした講座でした。

※カサンドラ症候群・パートナーや家族がアスペルガー症候群であるために情緒的な相互関係を築くことが難しく、不安や抑うつといった症状が出る状態をいう。



女性活躍講座 12/15(火)

ハーバリウム作り ときめく時間をあなたへ♪



長岡京市でシフォンケーキとハンドメイド雑貨店を営む森本さゆりさんと一緒にハーバリウムを作りました。そして、さまざまな活動を通じて感じてこられた思いをお話いただきました。





夢を追い続けて 内村周子さん講演会



母親・指導者として内村航平氏を金メダルリストに育て上げた周子さん流の子育て方法、そして自分の信じる道を歩み続ける軽やかで強靱な生き方など、ポジティブで熱い講演となりました。

パープル&オレンジリボンプロジェクト2020

◆【講座】11/13(金) DV・虐待の構造とトラウマを知る

中島幸子さん・西山さつきさん(NPO法人レジリエンス)に、実体験をもとにした事例を紹介して頂き、背景にあるDVや虐待の構造について学びました。また、トラウマについても理解を深めました。



◆【講座】11/17(火) DV被害者や虐待被害者を助けるための加害者への関わりについて

伊田広行さん(立命館大学、大阪経済大学、愛知淑徳大学等非常勤講師)にDVと児童虐待が密接に関連していることを具体的な事例を通して学びました。加害者支援の目的が「被害者の支援と再発防止」であることを再度確認しました。



◆パープル&オレンジメッセージカードツリー◆



511枚
集まりました。



ご協力
ありがとうございました。

◆DV関連図書展示◆

長岡京市立図書館 11/1~30

96人
書籍の貸し出し
がありました。



総合交流センターバンビオ1番館1Fフロアにてメッセージカードを記入して頂きました。



1/13 (水)

アライ(ally)の輪を広げよう!



コジさん
(NPO法人QWRC共同代表理事)
LGBT・SOGIの定義、誰もがいつもマジョリティにいるわけではなく、マイノリティになることもある、ということ。そしてセクシュアリティを理由に困っている人を助けるワークをすることによってアライへの気づきにつながりました。



1/27 (水)

~多様性を認め合える社会を目指して~

東優子さん(大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授)
差別や偏見により多様な生き方が認められないのは人権侵害。誰もが人権を守られ、互いの違いを尊重し合える社会づくりのために必要なことを考えました。



◇編集・発行◇

長岡京市男女共同参画センター
“いこ〜る” プラス

〒617-0833

京都府長岡京市神足2丁目3番1号

長岡京市立総合交流センター6階

TEL 075-963-5501

FAX 075-963-5521

E-mail: danjo-c@city.nagaokakyo.lg.jp

◇利用のご案内◇

☆開館時間

月曜日から土曜日

午前9時から午後5時

☆休館日

日・祝日及び年末年始

☆アクセス

JR京都線長岡京駅西口から徒歩1分

